



# 新嵐山スカイパーク自分ごと化会議 からの提案書

2023.5.20 新嵐山スカイパーク自分ごと化会議

# 1. 新嵐山スカイパーク自分ごと化会議 の概要

2022年12月から新嵐山活用計画の見直しを  
テーマに、無作為に選ばれた住民による議論を  
行いました。

## ○ 委員

無作為に抽出し協議会委員の案内を送付した数	2,000件
応募した委員(応募率)	46名(2.3%)
会議に参加した委員(参加)	36名(1.8%)

## ○テーマ及び各回の議論

テーマ:「新嵐山スカイパーク活用計画について」

- ・第1回会議:2022年12月18日(日)

住民協議会の概要説明(構想日本)  
テーマに関する説明(魅力創造課)  
委員の自己紹介など



- ・第2回会議:2023年1月9日(月・祝)

テーマについてグループに分かれて協議  
「改善提案シート」の記入 など



## ○テーマ及び各回の議論

テーマ:「新嵐山スカイパーク活用計画について」

### ・第3回会議:2023年2月5日(日)

ナビゲーターの参加

テーマについてグループに分かれて協議

「改善提案シートの間とりまとめ」について全体で協議

「改善提案シート」の記入 など

### ・第4回会議:2023年3月4日(土)

「提案書(案)」について全体で議論

「意見提出シート」の記入 など



## 2. 新嵐山スカイパーク活用計画 に対する提案書

以下の5つの提案は、令和4年度新嵐山スカイパーク自分ごと化会議の第2回会議、第3回会議で委員が記載した「改善提案シート」、第4回会議で委員が記載した「意見提出シート」および各回の協議内容を踏まえて取りまとめました。

## 改善提案の項目

提案	1.	新嵐山スカイパークのコンセプトやそれぞれの機能ごとのターゲットを明確にすることで、誰もが楽しめる場所を目指す。さらに、住民が当事者として関わる仕掛けをつくる。
提案	2.	利用目的の多様化を進めることで町内・町外ともに利用者を増やす。
提案	3.	新嵐山を中心とした芽室町の魅力を再発見し、新嵐山の資源や良さをさらに活かす。
提案	4.	高付加価値化などそれぞれの機能の見直しをさらに進め（特に宿舎機能）、スカイパークをさらに稼げる事業として事業の継続性を高める。
提案	5.	新嵐山の変化(リニューアル)についての前向きな情報発信を行ったり、住民と行政が定期的に話し合う場を設けるなど、新嵐山の存在の伝え方を工夫し、情報発信を強化する。

提案

1. 新嵐山スカイパークのコンセプトやそれぞれの機能ごとのターゲットを明確にすることで、誰もが楽しめる場所を目指す。さらに、住民が当事者として関わる仕掛けをつくる。

新嵐山スカイパークの理念(コンセプト)が不明確との議論が多く出た。この会議で結論が出たわけではないが「一流のB級リゾート施設」「町民に愛され外の人が魅力に感じる施設」など多くのアイデアが出た。

また、例えばスキーは初心者向けにするなど、機能ごとにターゲットを設定することで、新嵐山スカイパークには、町民も町外の人、世代も幅広く楽しむことができるのではないかと。さらに、いかに住民が当事者として関わってもらうかは、成功のカギとなるので、その仕掛けも考えていく。

## 「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 町民	<ul style="list-style-type: none"><li>①周りの人の意見も聞きながら、自分なりに一番のターゲットについて考える。</li><li>②コンセプトは時とともに変遷し、異なる事業を断続的に行う必要があるため、個人として新嵐山のコンセプトを定期的に考え直す必要がある。</li><li>③新嵐山の強みはB級であるところ。気軽に楽しみ場として町内会で話題にする。</li><li>④「B級」とは具体的にどの程度の品質かを言語化する。「求めているレベル」を明確化し、過剰な品質・サービスやコンセプトとずれた高級志向に異を唱えられるように考え、提案する。</li></ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"><li>①地域の中で話し合いをする。</li><li>②コンセプトが明確になったら、そのコンセプトに企業や飲食店は乗っかってタイアップする。</li></ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"><li>①機能ごとのコンセプトやターゲットを明確にしてからさらなる改善を行う(特に宿泊施設のコンセプトが不明確なので、全体のコンセプトに合わせていく)。</li><li>②地域や住民から定期的にコンセプトを聞く。</li><li>③多くの来客があるキャンプ・グランピング・スキーは稼げるのでターゲットを設定し、それ以外は、100人が100通りの使い方ができるようなコンセプトを考える。</li><li>④例えば「日本一寒いスキー場×サウナ」のような、今ある要素を掛け合わせたコンセプトを検討する。</li><li>⑤新嵐山はB級グルメのような立ち位置を目指す(本格的にスキーをするなら富良野やサホロ、お風呂なら十勝川温泉がある。B級にはB級なりに狙う層があると思う)。</li><li>⑥新嵐山独自でできること、新嵐山の強みを活かしたものを選択して税金を投入する(いくら観光に力を入れても、近隣の大型リゾート施設には勝てない。勝ち目があるなら税金投入しても良いと思うが、その点を疑問に感じている人もいると思う。)</li><li>⑦どこまで観光に力を入れるのか、ある程度の見通しを決める。</li></ul>



## 《その他の意見》

- ①新嵐山は町民主体の場所、施設であるべき。(外向きの観光には向かない)
- ②学校や保育所が利用しやすい環境を作ることが、将来を見据えた持続可能な町民利用につながるのでは。
- ③3世代や犬も楽しめる「敷居の低さ」や「最も晴天の多いスキー場」などを売りにできないか。
- ④税金投入のターゲットは子どもと高齢者ではないか。その他の世代への税金投入になるレジャー、スキー場の維持には反対。
- ⑤住民や飲食店が運営側に回るのはいいが、具体的に何をやるかを考える必要がある。芽室公園のフェスや氷灯夜などのイベントと比較すると、関わるには物理的に距離が遠く感じる。
- ⑥そもそも新嵐山ってどんな山？ という基本的なプロフィールの整理があってもよいのでは(標高など地形的特徴、植生などの自然環境。開発の歴史や伝承、農村地区で果たしてきた役割、もちろん名前の由来や名付けの経緯など)。
- ⑦利用者のターゲットは絞らず、広い年齢層がそれぞれの楽しみ方で新嵐山のファンになっていただくことが、これからの理想とする姿だと思う。それだけ、新嵐山には楽しみ方がたくさんある。

## 2. 利用目的の多様化を進めることで、町内・町外ともに利用者を増やす

これまでの中心的な利用目的だった「観光」と「地域レクリエーション」に留まらず、さらなる多様化を進めることが重要である。

子どもが楽しめるアクティビティを増やすほか、仕事やワーケーション、学校行事や部活などの活用が考えられる。

それらによって、町民も町外の人も、誰もがスカイパークに魅力と利用するための必然性を感じられる環境をつくる。

## 「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

<p>私たち 町民</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①出張やお客様に案内できる宿泊所として紹介する。</li> <li>②子どものための絵本やマンガ本等の寄付(品質やコストの問題が考えられる場合はAmazonの「みんなで応援プログラム」など)。</li> <li>③子どもが楽しめるよう、新たなアクティビティや支援策を考える。</li> <li>④子連れに配慮したマナーなどを発信する。</li> <li>⑤公共交通が不十分なため、ボランティアとして観光客の送迎などを行う。</li> </ul>
<p>地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①住民への利用を推進する。</li> <li>②高齢者団体や産業団体等、町内の団体で利用する。</li> <li>③グリーンシーズンに学生が集える場所づくり(遠征時の宿泊場所として)。</li> <li>④子どもが楽しめるよう地域としてサポートを考える。</li> </ul>
<p>行政</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①宿泊施設に関して、人間工学的な観点からの快適性を提供できる施設にして、ワーケーション等観光+α視点でのアプローチで利用客を増やす。</li> <li>②宿泊施設(部屋+お風呂)のデユース利用の開放と宣伝をする。</li> <li>③テレワークや勉強などで利用できるよう、フリーWi-Fiを整備する。</li> <li>④近年道外からの遠征も多いことから、部活での活用について学校関係へのPRをする(レジャーを絡めた合宿も考えられる)。</li> <li>⑤芽室町の子どもたちが新嵐山に愛着を持っていけるようバス学習などを検討する。</li> <li>⑥市街地の学校では、雪を楽しむ、雪に触れるような学校行事がないので、授業で子どもが冬の新嵐山でアクティビティを楽しむ機会を作ったり、学割などを検討する。</li> <li>⑦冬に遊べる子ども遊具設置(水遊び場の整備など)の検討。</li> <li>⑧試験的な期間を設定する。新規の体験授業(屋外炊飯/キャンプ研修)や町民・企業向けへのPR(新嵐山のリソース、芽室の普遍的な魅力発掘)。</li> <li>⑨足の確保策の検討(サービス券発行、バスの増便、利用者のタクシー助成など)。</li> <li>⑩お年寄りや障がいのある方などのための手すり等の設置やバリアフリー化を行う。</li> <li>⑪利用促進のため、浴場の利用券の発行を検討。</li> <li>⑫町民を巻き込んで楽しみながら新嵐山を清掃できる行事など、町民が年に一度は参加できるようなイベントや学校行事を考える。</li> <li>⑬自然を活用しながら、サバイバル力を高めるキャンプ研修など、災害対応の体験授業を実施する。</li> </ul>

## 《その他の意見》

- ①人口が減り、価値観も多様化しているので昔のような人数を確保することは難しいのでは？
- ②町民の思いを的確にとらえ、町民の思いに沿う形を追求する必要があるのではないか。
- ③屋外の施設は様々なリスクを伴うので、リスクマネジメントがかなり高度になる。ボランティアを安易に受け入れるよりも、新嵐山に家族で来られているのであれば、預かりではなく家族で楽しむという趣向が良いと思う。

提案

3. 新嵐山を中心とした芽室町の魅力を再発見し、新嵐山の資源や良さをさらに活かす。

新嵐山スカイパークの町外利用者の満足度は、とても高いことがアンケート結果などからわかっている。

町民の愛せない場所は外からも愛されないなので、外の人にとっての価値を町民が気付くことが重要である。スキー場や展望台、ドッグラン、グランピングなど新嵐山スカイパークに今ある様々な資源をこれまで以上に活用し、その良さを追求していく。

## 「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

<p>私たち 町民</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新嵐山に遊具ができたことを知らない人が多いので周知していく。</li> <li>②他の市町村の地元の盛り上げ方の例を調べる。</li> <li>③”知られざる名所”をどう洗い出すかの仕組みを考える。</li> <li>④まずは積極的に行って、自らが活用する。</li> <li>⑤観光と町民をつなげるアイデアを出す。</li> <li>⑥季節ごとに散策路・登山道を歩いて、どこに何があったらいいか提案する。(看板設置／植樹の提案など。アクティビティの追加も検討。)</li> </ul>
<p>地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①シニアの公園管理の方々に依頼をして花植えを試みる。</li> <li>②地域のイベント開催、参加。</li> <li>③「道の駅おとふけ なつぞらのふる里の事例を参考に、十勝を舞台にした作品(NHK朝ドラなど)とのタイアップを考える」</li> </ul>
<p>行政</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①コロポックル伝説の可視化を検討する。</li> <li>②今の観光政策が他市町村とあまり変わらないので、再度見直しを行う。</li> <li>③夏のスキーゲレンデの活用について、放牧エリアの一部を開放しアクティビティの実施や、リフトの運行を検討する(現在は放牧のため立入禁止)。</li> <li>④スキーのみならず、年に一度は色々な世代の人が集まれるような新嵐山の資源を最大限に活用できるイベント(祭りなど)の検討。</li> <li>⑤展望台の活用策の検討(360度見渡すことができ、放牧した牛を見ることが出来る景色の良さをもっと活かす。展望カフェの復活の検討。)</li> <li>⑥展望台までの登山道の整備を行う。(登山道が荒れている。また、登山者・自動車・畑に行く作業者が共通で使っている。機械の導線を踏まえて整備することが必要。)</li> <li>⑦ドッグランだけでなく、自然全体と一緒に楽しめるような仕掛けをする。(フットパス、トレイルランニング、小川の活用等)</li> </ul>



提案

4. 高付加価値化などそれぞれの機能の見直しをさらに進め(特に宿舎機能)、スカイパークをさらに稼げる事業として事業の継続性を高める。

スキー場をはじめとしたスカイパークへの町民の愛着は強いという意見が多く出た。一方で新型コロナの影響もあり、現在のスカイパークの経営状況は良いとは言えない。特に宿舎の収支は非常に悪い状況になっている。

今のままの継続は不可能という意見が大半だったことを踏まえ、施設のリニューアルや多目的化など、早急に改善策を決める必要がある。

他の機能についても、経営状況の分析をさらに精緻に行いながら常に見直しを進めることで、新嵐山スカイパークが将来にわたって持続可能な施設にしていく。



## 「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 町民	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自ら新嵐山へ行き、レストラン等利用し、美味しさ・長所を知る。</li> <li>②個人で利用して、改善すべき点を行政に伝える。</li> <li>③ドッグランについて、犬のアクティビティの提案、仲間と利用・個人として利用する。</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自治会として利用する。年一回(以上)の新嵐山の施設利用を推奨する。</li> <li>②町で出る廃材を利用してのリサイクルなど、町民を巻き込んだ施設建設を検討する。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>①目標利用人数を設定する(損益分岐点)。</li> <li>②町民の力で経営状況をよくするためのストーリーを提示する。</li> <li>③人口減少や政治経済の観点から利用料の見直しをする。</li> <li>④宿舎と公園・キャンプ場の営業利益を増やす。部屋ごとの金額変更。</li> <li>⑤カフェの設置(視界が良いなら子どもにも目が届く)。</li> <li>⑥小学生によるレストランメニュー開発や農家レストランを検討する。</li> <li>⑦例えば犬との宿泊やサイクリングなどできそうなことからまずやってみる。</li> <li>⑧町外を対象とし、特別な体験を売りに高単価で行う。またニーズの調査を行う。</li> <li>⑨宿泊施設のリニューアルを行う(老朽化施設の改修)。</li> <li>⑩ゲレンデで牛を夏に放牧しているイメージを活用して乳製品×野菜のブランド化を検討する。</li> <li>⑪愛菜屋はもとより、地元の企業(明治乳業)と提携して収益性を考える。</li> <li>⑫人気のドッグランの有料化のほか、ペット宿泊可能な宿舎の設置や犬用食事メニュー、犬と一緒にのカフェ、トレーナー在駐の日の設置などを検討する(ドッグパーク構想)。</li> <li>⑬グランピング強化・着替えや暖が取れたり、雨天でも利用できるようにする。(宿舎から宿泊機能をなくしてグランピングに特化し、現宿舎はグランピングを補完するための施設とするなど)</li> <li>⑭利用者を増やすためのアイデアを募集する。</li> <li>⑮多目的トイレの充実(男性トイレへのベビーベッド設置)</li> <li>⑯経費がかかってもスキー場のリフトの更新やメンテナンスを行う。</li> <li>⑰利用者数多いキャンプ場やドッグランをさらに改善する。</li> <li>⑱利用料の適正化や新規事業の実施について指定管理者との協議を行う。</li> <li>⑲新たなアウトドアが体験できるようなイベントの検討を行う。</li> <li>⑳ネーミングライツの販売による収益を得ることを検討する。</li> </ul>

## 《その他の意見》

- ①利用者を増やすためのアイデア例
  - ・物販コーナー、旧パトロール小屋(管理棟)を活用したキッズランド、屋内で遊べるスペース、入浴施設等の充実
  - ・アウトドアブランドの招致(例:南富良野町のモンベルなど)
  - ・RVパーク構想:日本RV協会の条件の駐車スペース(4m×7m程度)
  - ・体験活動の充実:昼間は氷を使ったキャンドルを置き、夜は蝋燭を灯してまったりと過ごせるようにする。
  - ・芽室新嵐山株式会社で愛犬用ジビエおやつ製造部門設立。
- ②温泉の掘削を再度行うことはできないか(温泉スパの設置など、最新の技術でも無理?)。
- ③大人のレジャー施設としての存続は望まないが、宮ノ丘幼稚園の写真の様に子どもの教育施設としてのスキー場維持には賛成。
- ④リフトなど高額な維持管理には異を唱える。安全が保障される程度の最低限の維持管理で良いのではないか。
- ⑤キャンプもせず犬も飼っていないと夏の新嵐山の楽しみ方がわからないので、喫茶店でコーヒーを飲みながら本を読んだり資料を読みこんだり、できることをレストランでやってみる。
- ⑥お年寄りの方の健康増進のためにも、スキー場は中心としてほしい。十勝住民のスキーの足慣らしの場としてあるのも良い。
- ⑦宿泊施設のリニューアルに関して、ハード面のみならずホスピタリティ等のソフト面の強化があってはじめて効果が出ると思う。
- ⑧噴水、温水プールの設置を検討する。

提案

5. 新嵐山の変化(リニューアル)についての前向きな情報発信を行ったり、住民と行政が定期的に話し合う場を設けるなど、新嵐山の存在の伝え方を工夫し、情報発信を強化する。

リニューアル後のスカイパークについて知らない人が多く、積極的かつ工夫をこらした情報発信を望む声が多く上がった。

また、行政側からの一方的な発信だけでは町民全体の納得度の向上にはつながらないため、近隣の人を中心に町民とのコミュニケーションを密にしていくことが重要。

さらに、口コミなど行政だけでなく、町民みんなが発信者になるための仕掛けも考えていく。

## 「提案5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

<p>私たち 町民</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①SNS等でPRする。</li> <li>②町外の人(家族、親戚、友人)を連れて新嵐山を利用する。</li> <li>③ドッグランの良さを発信する。</li> <li>④近所の人との雑談の中で新嵐山の話をする。</li> <li>⑤町内の公衆浴場がなくなってしまうよう、新嵐山の風呂の利用を呼び掛ける。</li> </ul>
<p>地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新嵐山のパンフレットの町内各所への設置の手伝いをする(駅や工場見学をしている企業など)</li> <li>②地域として新嵐山スカイパークとどのように関わりを作り芽室町を盛り上げていけるかを話す場を設ける。</li> <li>③様々な分野の人からの情報提供を地域で取りまとめる。</li> </ul>
<p>行政</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①キャンプ利用客に新嵐山や町内の観光パンフレットを渡す。</li> <li>②天候や景色の移り変わりなど、新嵐山から見られる景色の美しさを配信する。</li> <li>③SNS用QRコードや動画を使ってPRする。</li> <li>④食事がおいしいことをアピールする。</li> <li>⑤キャンペーンの実施(年一回は新嵐山にお金を使おうキャンペーン、新嵐山×飲食店タイアップなど)。</li> <li>⑥今回のように偏らない老若男女のメンバーをランダムに集めた場を今後もつくり、新しいことを更新し続けられる新嵐山にしていく(もっと魅力ある新嵐山にしていきたいと思っている町民は多い)。</li> <li>⑦ドッグランやグランピングなど、特徴ある機能の差別化した発信(他とは少し違うことをアピールする)。</li> <li>⑧ハッシュタグなどで、「あなたの好きな新嵐山の一枚」を投稿してもらい、抽選でプレゼントがもらえるなどの仕掛けを作る。</li> <li>⑨行政が困っていることが伝わらないので、赤字になっていたとしても、四苦八苦しているところも含めてすべてさらけ出して発信する。</li> <li>⑩芽室町の将来的なビジョンをもとにした新嵐山スカイパークのあり方についての町民との対話の機会を設けると共に、現場事業者を含めた建設的な事業構想を作る場を設ける。</li> <li>⑪帯広市内を走る送迎バスに新嵐山をPRできるようなラッピングを施す。</li> </ul>

## 《その他の意見》

- ①流行を追えば良いのではなく、普遍性のものかどうかに関点を置いた(持続可能かどうか)発信を考える。
- ②昭和のビジネスモデルではなく、令和としてのあり方を考えなければならない。
- ③単発のイベント告知・広告には力を入れてもいいが、行政がそこまでPRに時間を掛けなくても良いのではないか (PRは民間に任せる。口コミで広まる)。
- ④SNS、すまいる、新聞のチラシ、広告などに特集を組んで知ってもらおう。行政の仕掛けがなかなか町民に伝わらず行政が勝手に進めているという意見が多いため、色々な世代の方がわかるようにするための工夫が必要。
- ⑤新嵐山の変化が激しくてついていけない人もいますので変化を町民に対して発信する。受け入れられない人に丁寧に説明する。
- ⑥小児病院情報を発信する。
- ⑦町の飲食店や新嵐山を利用するとそれぞれで使えるポイントの発行なども考える。